

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472100914	事業の開始年月日	平成15年7月1日
		指定年月日	平成27年7月1日
法人名	特定非営利活動法人グループホーム虹の会		
事業所名	グループホーム虹の家		
所在地	(248-0024) 神奈川県鎌倉市稲村ガ崎四丁目5番19号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和3年2月3日	評価結果 市町村受理日	令和3年5月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/14/index.php?action_koshyon_detail_2016_022_kami+trunk&IgyosyoCd=1472100914-00&ProfCd=14&VersionCd=022
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none">・昼間の職員の人数は法定より1人程度多く、入居者一人一人のニーズに対応出来るようにしている。・入居者一人一人が朝1日を気持ちよく始められ、日中の活動を十分に、満足して1日を終わり、夜安心して休んでいただけることを目標に日々努力している。・一人一人に合わせた自然な形でのケアを心掛けている。・地域との交流の場を大切にし、地域の方々に講師にお招きし、近所の方のボランティアを得て活動している。・回想法を採り入れている。グループ回想法は、入居者が一堂に会してお互いに話し合う社会的な場を共有することにより、一人一人が満足した時を過ごすことができ、安心してグループホームを自分の居場所として実感していただけることを目標に実施している。※ 上記、特に地域の方々との交流や講師を招いての回想法等について、コロナ禍においては自粛を余儀なくされている。感染症対策に取り組みながら、可能となった時にはすぐに再開できるよう、連絡を取るようになっている。・住み慣れた場所で、穏やかな最期を迎えられるように、ターミナルケアに力を入れている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年2月19日	評価機関 評価決定日	令和3年5月8日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 <p>事業所は、江ノ島電鉄稲村ヶ崎駅から徒歩約5分の閑静な住宅地に立地している。看護師である理事長が、看護師の友人たちと設立したNPO法人が運営している。建物は2階建の木造住宅で1階が共有スペース、2階が居室9室の1ユニットになっている。</p> 【家族からの意見・要望の把握と情報提供】 <p>家族の意見・要望は、年1回の家族懇談会の他、運営推進会議、ご意見箱、面会、電話連絡やSNSと多様な機会を設定し把握している。事業所全体の情報を掲載した「にじのたより」に加え、利用者の様子、医療情報や写真などを掲載した利用者別の「たより」を毎月家族に送付し、利用者に関する情報提供を行っている。</p> 【充実したターミナルケア】 <p>入居契約時に「ターミナルケアについての指針」を説明し同意を得ている。その後、毎年家族に看取りに関するアンケートを実施し、意向を確認している。看取りは、家族と「ターミナルケア同意書」を交わしたうえで、看取り介護計画書を作成して、家族、医療関係者などと連携し支援している。昨年度は1名の看取りを行ったが、看取り後に、職員ミーティングの中で振り返りを行っている。3月に看護師を講師とした研修を計画している。事業所では、住み慣れた場所で、穏やかな最期を迎えられるよう、充実したターミナルケアの実現に取り組んでいる。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム虹の家
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・日々の気付きやケア実践の積み重ねを理念に基づいて介護計画に反映させ、サービス提供に活かしている。	法人の理念「利用者がその人らしく、安心して家族的に生活を心豊かに過ごすことができる場を提供すると共に、地域の福祉に貢献する」を基に、「みんなで利用者のうれしいを探しましょう」という目標を掲げている。理念と目標は、事務室に掲示して周知している他、月2回の職員ミーティングでも確認している。職員は、どうしたら利用者が「うれしい」と思ってもらえるかをよく考え、レクリエーションの企画などを検討している。	職員は、理念に基づき「安心で家庭的に生活を心豊かに過ごすことができる場の提供」に努めています。こうした中、更にサービスの質を向上させるため、介護・医療に関する専門的な知識・スキルの取得に向けた取り組みが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は自粛している ・近隣幼稚園とは誕生会や毎日の散歩で交流している。作品展には合同作品も作っている。 ・地域の方には職員が率先して挨拶し、利用者と自然に交流出来るようにしている ・近所の子供たちがハロウィンに尋ねてくる ・近所の方が教室の講師をしてくださっている 	自治会に加入して、回覧板で地域の情報を得ている。近隣の幼稚園で開かれた園児の誕生会に同月に誕生日を迎える利用者が招かれ一緒に祝ってもらった。園児も事業所を来訪するなどして交流している。また、園児と利用者の共同作品を、事業所の作品展に出品している。作品展には、家族や地域住民などが参加している。傾聴や絵画・書道・写仏教室の講師のボランティアを受け入れている。元利用者の家族が事務の手伝いに来ている。(今年度、地域交流は中止している)	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域介護支援機構、NPOセンターなどに加入し交流に努めている。 ・認知症の家族を持つ方の相談相手になっている。 ・年一回行う作品展を通じて、グループホームの実情や、認知症の方の生活について紹介している 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議には、ご家族代表、近隣住民の方、地区の民生委員などに参加していただき活動への理解を深め、災害対策、レクレーションの内容等幅広く助言を頂いている。	運営推進会議は、2か月ごとに家族、民生委員、地域住民、市高齢者いきいき課と地域包括支援センターの職員、介護相談員が出席し、開催している（今年度は中止）。遠出する場所を検討していた際、出席者から江ノ島の水族館を紹介され、利用したことがある。また、出席者から、独居高齢者の暮らしの状況や、介護サービスへの評価などの福祉関連情報を提供してもらい、参考にしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営上不明なことについては速やかに市役所に相談している。 ・書類を市役所に直接持参するなどして、行き来する機会を積極的に作っている。 ・地域密着事業者連絡会では、GH部会の委員として研修開催に協力している	市の高齢者いきいき課からは、運営推進会議や、介護保険関係書類の市役所への持参時などに助言や指導を受けている。今年度は、マスク、消毒液、フェイスシールド、手袋等の在庫管理などについて、市や県などと連絡を密に取り合っている。市の地域密着型サービス事業所連絡会に参加して行政と交流している。介護相談員を受け入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束は行っていない ・玄関の施錠については主に防犯上の観点から、家族等によく説明した上で行っている。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、身体拘束等の適正化委員会を3か月に1回開催している。委員会では、身体拘束の有無の確認の他、今後の委員の活動、次回の研修内容、委員の見直しなどについて論議している。3月に実施する研修では事例についての意見交換を行い、身体拘束をしないケアの再確認を行うことにしている。玄関は防犯や安全対策のため施錠している。外出願望の強い利用者には、職員が付き添い対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりある人員配置により、職員が虐待につながるような過度の緊張状態に陥ることがないように配慮している。 ・虐待についての報道等を踏まえ、そういったことが起こらないように皆で話し合いを持ち、研修も行っている 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者家族等が制度の利用を検討、または必要と思われる場合に、適宜支援している。現在1名の方が同制度を利用中である。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時は将来のことを含めて出来ること、できないことを明確に説明している。 ・契約改訂に際しては、十分な説明と話し合いの上で行っている。 		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の運営規程、苦情申し立てについての説明文と共に意見箱を設置している。 ・介護計画の家族の意見欄を活用し、希望する事や、直接言いにくいような事も伝達できるようにしている 	<p>家族の意見・要望は、年1回の家族懇談会の他、運営推進会議、ご意見箱、面会、電話連絡やSNSで聞き出している。管理者は、家族からの話を聞く際は、利用者や職員の気持ちを考えながら、聞くよう心がけている。新型コロナ禍で、面会を制限せざるを得ない中、家族からの「もっと利用者の様子を知りたい」「早く顔が見みたい」といった要望も踏まえ、ビデオ通話によるオンライン面会を実施した。2週間に1回程度利用する家族もいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の申し送り、月2回の管理者及び職員全員を対象とするミーティングを実施している。検討内容を記録し、周知している。 ・休み時間等で忌憚のない意見を言えるようにしている 	職員の意見・提案は、日々の会話や月2回の職員ミーティング、毎朝の申し送りなどで聞き出し、運営に反映している。法人の理事長も日常会話などで職員の意見を聞いている。管理者は、職員一人ひとりの性格や気質を踏まえて話を聞き、アドバイスできるよう心がけている。職員の意見で、紙粘土で牛の置物を作る工作や、おかし作りなどのレクリエーションを実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得者への手当支給、研修費用の負担等、意欲の喚起に努めている。 		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が各種研修に参加できるよう、費用や時間の確保に努めている。 ・実務者研修、初任者研修、新人研修等に参加している ・市主催の認知症ケア研修に職員が参加している ・介護福祉士試験の費用を法人が負担している 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・かまくら認知症ネットワークに参加し、交流している。 ・他事業所との交流をしている。鎌倉市の「地域密着事業者協議会」に参加している。 ・虹の家での作品展に他の事業所の利用者を招いている*本年は自粛 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・家族からの聞き取りだけでなく、必ず現在生活している住まいを訪問、本人と面談してその思いや不安を受け止めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・管理者は介護士としての経験を踏まえながら相談に乗り、丁寧な説明を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・事業所に空きが無く、実際のサービス提供ができない場合にも、誠意を持って相談に乗り、入居待ちをお願いしたり、他のサービスや事業所を紹介するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・尊敬の念をもって言葉遣いには十分に注意し、優しさ、思いやりの心などに感謝を示す。 ・家事を分担するなどし、役割を持って生活していただく		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・折に触れて本人についての現在、過去の情報を共有している。 ・利用者の誕生日会を催し、家族と共に祝い、歌うなどしている*自粛中 ・家族による思い出話等の中にも、ケアのヒントを見出している ・テレビ電話を通じて交流を保てるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご友人からのお便りを一人で読めない方には、職員が代読している。 ・訪ねてきた方と一緒に過ごせるよう、支援している。*自粛中 ・電話、テレビ電話で話ができるようにしている。 	入居時のアセスメントや家族からの情報で、利用者の生活歴や馴染みの関係を把握している。友人や知人の面会時には、ホールや居室に案内して、湯茶でもてなしている。電話や手紙の取次ぎも行っている。利用者に馴染みの新聞の購読や、家族が持参する馴染みのアイスクリーム、おやつ、化粧品などの取り次ぎを行っている。趣味の読書を継続している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・食卓では仲の良い方同士が会話を楽しみながら食事できるよう席順を配慮している。 ・1階、2階のホールを整備し、ゆったりくつろげる環境を整えた 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・亡くなられた方のご家族にグリーンフレターとお花を送るようにしている。 *希望される方には催事等に参加できるよう、たよりをお送りしている。 *亡くなられた方のご家族が、レクリエーション活動の先生や手伝い、理事会にボランティアとして参加して下さっている 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・毎日の申し送りの中で、個々の細かい状態を確認しながら話し合い、希望通りの生活が困難になった方にも、出来る限り希望に添えるよう配慮している。	職員は、入居前に自宅や介護老人保健施設などを訪問して住環境や生活歴を確認している。入居後は、日頃の会話の他、入浴中など1対1の会話を大切にして、思いや意向の把握に努めている。意思疎通困難な利用者には、家族からの情報や利用者の行動、表情から推測し、支援に繋げている。把握した情報は、業務日誌や個人記録で共有して、職員ミーティングで話し合いケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご本人の生活状況、趣味趣向、性格、生い立ち、土地柄、時代背景などの情報をご本人やご家族からお伺いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・睡眠時間、食事の摂取量、バイタルチェック、清潔の保持、更衣の見守り、レクや家事の遂行等、一人一人の現状に合わせて支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ICFの視点を採り入れたケアプラン立ち上げシート(諏訪さゆり氏監修)や医療アセスメントシート等を利用し、各職員の意見を聞きながら介護計画を作成し、必要に応じて随時見直しを行っている。	介護計画は、アセスメントとモニタリングを基に、職員ミーティングの中でカンファレンスを行い、利用者・家族の要望と医療関係者の意見を反映して作成している。計画は、入居時は1か月、その後は原則6か月ごとに見直しているが、状況変化時にはその都度見直している。ケース記録のファイルにも計画を入れて内容を確認できるようにして、計画とケアの連動を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ミーティング時にモニタリングを行い、改善点を検討する。 ・毎月、前月分の記録をまとめて読み返し、ご家族へのお手紙にまとめる作業を通して、次の介護計画や日々の実践に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・高齢や、遠方にお住まいなど、ご事情のあるご家族には、必要に応じて通院に付き添っている。 ・外出が好きな方を対象にドライブに行くなどしている。 ・運動好きな方には運動プログラムを提案している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・消防や自治会と連携して防災訓練を実施している。 *近隣の幼稚園と日常的に交流している。 *傾聴ボランティアが毎週きてくれている *自粛中		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・家族と相談の上、近隣の提携開業医や提携病院等の受診を支援している。 ・通院が難しい方には月2回訪問診療を受けている。	全員が、2つの内科の協力医をかかりつけ医とし、月2回または1回（協力医により異なる）訪問診療を受診している。また、精神科の訪問診療の受診も可能である。歯科は、必要に応じて希望者が訪問診療を受診している。診察結果は、当事業所所属の看護師が医師の指示などを業務日誌に記載して情報共有している。眼科などの専門医への通院は、原則家族が付き添っている。通院の受診情報は、家族から職員が聞き取り業務日誌に記載して情報共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・職員2名(非常勤)が看護師で、各利用者毎に必要なチェックを行っている。 ・体調悪化時やターミナル期には、職員に指導している。24時間対応出来る体制である。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時には可能な限り職員も同行し、医師の説明の時は家族が許せば同席している。 ・退院に向けてご家族の希望や医師の意見を聞く機会を設け、リハビリの様子などを見学している 		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルケアについての指針を設定し、年1回アンケートを実施している。 ・個々のかかりつけ医には、当事業所の方針について話して了承を得ている。 	入居契約時に「ターミナルケアについての指針」を説明し同意を得ている。その後、毎年看取りに関するアンケートを実施し、意向を確認している。看取りは「ターミナルケア同意書」で家族の同意を得て実施している。看取り介護計画書を作成し、家族、医療関係者などと連携し支援している。昨年度は1名の看取りを行ったが、看取り後に、職員ミーティングの中で振り返りを行っている。3月に看護師を講師とした研修を計画している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な訓練は行っていないが、想定される事態に対処するための研修等を随時実施している。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、防災訓練を実施している。その際地域の方にも声をかけ、避難誘導など協力していただいている。 ・火災通報装置に近隣住民への通報を登録している。 	<p>夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。年1回は消防署が立ち会っている。火災通報装置を押すと近隣住民にも通報が届くように設定されており、毎回の参加を得ている。近隣住民には避難の誘導と見守りをしてもらっている。地震を想定した訓練も実施し、食器棚などに転倒防止策も講じている。災害時備蓄品一覧を作成し、6日分の食料と飲料水の賞味期限管理をしている。その他、固形燃料やガスボンベなどの熱源も確保している。</p>	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のプライドを尊重し、注意深く言葉掛けをしている。特に排泄に関することは、メモを用いて連絡を行い、職員が常に確認出来ると共に匿名性を確保している。 	<p>職員は、「法令遵守と利用者の権利擁護」に関する研修を受講している。会話や業務日誌の記録は、部屋番号（アルファベット）で行っている。フロアでケース記録などを記載する際は、周辺に十分配慮して行っている。職員の会話や行動が、利用者を傷つけないか目配りし、気付いたことがあればすぐに管理者が指摘している。パソコンは、利用者を限定したうえで、パスワードを設定し情報管理を徹底している。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・何かを行う前に希望を伺って、皆で相談している。選択式にするなど質問を工夫し、答えやすいようにしている。歌やおやつの内容、遊びの種類、散歩に行くかどうか等。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・朝は好きな時間に起きる。みんなと一緒に食事したい人は食事時間に間に合うように起きられるよう支援している。早めに休みたい、昼寝がしたい等の希望も伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・それぞれの家族に依頼して、好みの衣類や愛用の化粧品等を用意していただいている。 ・ネイリストの職員がおり、ボランティアでネイルケア等を行っている ・着物や浴衣を着る機会を設けている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・好みに合わせた献立の工夫をしている。味覚が低下しているため、見た目にも楽しめる工夫をしている。 ・行事の際には外食に出かけたり、お寿司等の出前を取っている。*現在はコロナ禍で外出を控えているため、出前の機会を増やしている ・皆と一緒に巻き寿司を作ったり、コロッケ作りやクッキー、カップケーキ作りなども行っている。	朝食・夕食は、専門業者のレトルト食品中心の食事で、朝食ではパンを提供する日がある。昼食は、一品のレトルト食品以外はパートの専門職が調理している。利用者は、野菜の皮むきや洗米、お茶入れ、盛り付け、食器洗いなどできることを手伝っている。利用者の状況に合わせて、トロミ食、ミキサー食などを提供している。新型コロナ禍で外食は控え、寿司（誕生日）や、ピザ、お弁当などの出前を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・嚥下の悪い方にはトロミ剤を使用、堅いものが食べられない方にはミキサー食、ムース食を用意し、摂取量が改善した。 ・好みに応じた飲み物を用意し、適切な水分摂取を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食後にお茶をお出ししている。 ・元々の生活習慣に合わせているため、毎食後に行う人もいれば、朝晩のみの人もいる。丁寧な口腔ケアを心がけている。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの方に合わせたタイミングでトイレ誘導等を行っている。 ・歩行困難な方には夜間居室にセンサーを設置して、目が覚めた時に介助出来るようにしている。 ・必要に応じてポータブルトイレも使用できるようにしている 	排泄は、個人記録一覧表と排便チェック表で排泄パターンや特徴を把握し、定時誘導や利用者の様子や仕草をとらえた随時誘導を行って、トイレでの排泄を支援している。誘導の際は小声で話しかけるなど羞恥心に配慮している。夜間対応は、睡眠優先や定時誘導など個人の特性に合わせた支援を行っている。退院してきた利用者が、支援の結果、おむつからリハビリパンツを使用できるまで改善した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の散歩や体操を行い、繊維質の物を食事に取り入れている。 ・水分補給に努めつつ、乳酸菌飲料やごぼう茶などを取り入れている。 		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の希望や身体状況に合わせて、時間帯や回数、入浴の形態、介助の程度などを考慮し、入浴を楽しめるよう支援している。 	入浴は、3日に1回、午後に入浴できるようにしている。午前中の方が気持ちよく入浴できる利用者には、午前中に入浴してもらっている。入浴を好まない利用者には、時間や曜日、担当者の変更で対応している。入浴しないという意思も尊重し、無理に入浴してもらうことはしない。重篤な利用者は、シャワー浴や足浴、清拭で対応している。利用者は、職員との会話や、菖蒲湯や柚子湯、入浴剤を楽しんでいる。同性介助にも対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が希望すればいつでも横になれるようさりげなく声かけ、見守りをしている。 ・気候に合った寝具を使えるよう支援している。必要に応じてエアコンを使用している。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・服用中の薬の一覧表を看護師のチェックの下で作成し、活用している。 ・新しい薬が処方された場合は、症状を観察、報告している。 ・下剤の調節に際しては、医師と連絡を取りながら対応している 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・1日に一度はみんなで歌う機会を設けている。 ・座ったままで出来る仕事、立ってする事など、それぞれの能力に応じて家事に参加出来るよう支援している。 		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、散歩に出られるよう支援している。 ・*少し遠くまで外出する機会として、外食に出かけたり、フラワーセンターに行ったりしている。 ・*自粛中 	<p>天気の良い日には、毎日散歩に出かけている。散歩には、車椅子の利用者も参加している。基本的には1対1で出かけている。新型コロナ禍以前は、花見や大船フラワーセンター、江ノ島の水族館にドライブで出かけていた。また、家族の支援で、通院や、外食、旅行、自宅での外泊、墓参りなどに出かける利用者がいた。利用者の外出歴を業務日誌に記録して把握し、利用者の外出に偏りが無いようにしている。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は金銭の管理、使用が困難なケースがほとんどである。それぞれの状態に応じて、お金の不安を解消できるように支援している。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ電話の使用を支援している ・お手紙等を見て楽しまれた後、混乱される例もあり、お預かりする場合もある。 ・絵ハガキ作りをして、家族に年賀 		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・建物自体が一般の住宅の様な作りで、安心して生活できるよう配慮されている。 ・各部屋に温湿度計を設置し、調節に活用している。 ・1階ホールに大きめのテーブルを設置し、庭を眺めながら共に過ごせる。庭の手入れはボランティアが来てくれている 	台所はオープンキッチンで五感を刺激している。対面キッチンで利用者の様子を見守りながら調理ができるようになっている。日めくりカレンダーや、トイレの大きな表示などで見当識に配慮している。温湿度管理は、エアコンと加湿器で行っている。換気は、利用者の密度を考慮して行っている。居間の壁には、利用者が絵画教室などで作成した貼り絵、塗り絵、写仏や、誕生日やレクリエーションでの利用者の写真を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が自由に外気浴出来るよう玄関前にベンチを設置している。 ・2階ホールにはソファを設置し、ゆったりと過ごすことができる。 		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の居室の備品は本人の好みであった、あるいは使い慣れた物をご家族に持参していただいている。 ・テレビ、ラジオ、CDプレーヤー等、それぞれの好みに応じて置いている。 ・写真等が混乱の元になることもあり、必要に応じて整理している。 	居室には、エアコン、照明器具が備え付けられている。ベッドは前の利用者から引き継いでいるケースが多い。テレビ、人形、ダンス、ソファ、鏡などの馴染みの品や、家族の写真、利用者の制作した作品などの思い出の品が持ち込まれ、個性豊かな居室になっている。掃除は、職員が行っているが、可能な利用者は職員と一緒にいる。安全対策として、家族の同意を得て、離床センサーを使用している利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・日めくりカレンダーを3カ所に貼り、常に日付が確認できるようにしている。 ・危険があると思われる方には、センサー等を使用して安全確保に努めている。 ・歩行困難な方には、室内でも歩行器を使用して頂いている 		

目標達成計画

事業所名 介護-福祉-共 共工の家

作成日 令和3年 5月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員は理念に基づいたケアの提供に努めていたが、更にサービスの質の向上させるための取り組みが必ず必要と考えらる。	サービスの高い介護・医療の知識、スキルを習得し、学ぶ。	積極的に施設内・外の研修の実施(内)、参加(外)を促す。	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。